

2026年(令和8年)

第96号

(4月4日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会

発行責任者：渉外部長 澤村悦玄

編集委員長：渉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条東町 230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

天皇盃第37回全国車いす駅伝競走大会 ～青壮年が運営を支える～

京都教会青年部は3月8日(日)に開催された天皇盃第37回全国車いす駅伝競走大会の運営ボランティアであるユース21 京都の一員として、のべ24名が参加しました。今大会(主催：一般社団法人京都障害者スポーツ振興会・全国車いす駅伝競走大会実行委員会ほか)は全国規模の駅伝大会で、障害者スポーツの最高峰とされており、今年は昨年より1チーム多い19チーム・15～69歳までの95人が選手として参加しました。

8日に先立ち、7日の受け入れボランティアは若手



壮年が中心となり、国立京都国際会館付近の駐車場で誘導・案内を行ないました。足が不自由でも腕だけで運転できる特殊自家用車で全国から集合される様子は、選手一人ひとりの大会にける熱意を感じさせるものでした。昨年とは異なり、駐車スペースが3ヶ所に分散したことでボランティアもそれぞれに分かれ慣れない誘導となりましたが、連携を取りながら、みな笑顔で選手を受け入れることが出来ました。

8日は選手が国立京都国際会館前をスタートし、5区間21.3kmをゴールの西京極たけびしスタジアム京都まで疾走する中、青年部員はスタジアムでの物品搬出作業やレースが終わった各区間からの選手の降車介助に汗を流しました。短時間に多くの介助が集中した際には、みな焦りの色を隠せませんでした。それでも常に笑顔で選手と触れ合う姿は印象的でした。

ユース21 京都の加盟団体が屋外で振る舞うカレーとおにぎり・豚汁は格別で、英気を養ったメンバーはバスで国立京都国際会館前に移動。前日に受け入れた選手の降車介助に再び汗を流しました。参加したメンバーは達成感を味わい、「楽しかった」と笑顔で語ってくれました。

京都市深草墓園春季慰霊祭 ～円心教による厳粛な中にも心温まる式典～

令和8年の京都市深草墓園春季慰霊祭が3月14日に行なわれ、京都教会から東教会長はじめ渉外部スタッフや京都府宗教連盟事務局が参加しました。

今年の式典の奉仕は新日本宗教団体連合体の円心教が担当。終始、厳かに執り行われました。

献花にあたり松井京都市長は「この墓園は静かな深草の丘陵地に昭和33年に開設されて以来、多くの先達の方々をお祀りしています。万人を超えるみ霊が祀

られ、心安らかにされるよう慰霊し、京都市として、これからも墓園を大切に護っていきたいと思います」と式辞を述べました。



“おつとめ”では円心教の唱え文「日課勤行文」により「自覚反省懺悔文」「般若心経」を唱えました。

般若心経が読経される中、東教会長ほか各団体代表者や参拝されたご遺族全員が焼香され、墓園に集うすべての人の真心が、み霊に届いたようでした。

穏やかな天候のもと、厳粛な中にも心温まる式典が行なわれ、参加者全員で慰霊することが出来ました。



令和8年、私たちは「仏さまと出会い サンガと語り合っ て 心田を耕そう」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。 <https://rkk-kyoto.jp/> (右のQRコードからご覧頂けます)



春季彼岸会 ～日頃の感謝、日頃の徳分を回向していく～

京都教会では3月22日、春季彼岸会を行ない多くの会員が参拝しました。

式典は午前10時から経典一卷の読経供養、体験説法、東教会長のお言葉と続きました。

読経供養中、約50名の教師資格者が各支部から上がってきた6,691体の戒名・1,300家の先祖代々を心を入れて読み上げました。



東教会長はお言葉の中で、「お盆はご先祖さまが私たちのところに近づいて下さる時期に対して、春・秋の彼岸会は私たちがご先祖さまに近づいていく日」とし「日頃の感謝、日頃の徳分を回向していくことで、自分自身が温かい心持ちになる日」だとしてました。

また、説法された方や教会長自身の過去の体験にふれながら「ご先祖さまには人生を教えて頂いたように思いますし、ご先祖さまの人生から学ぶことがあります」と述懐しました。続けて「私たち一人ひとり自分自身の人生の因縁は両親や両親から学び、すべては“縁起観”であり、それは問題探しではなく仏性を開くための“縁起観”でありたいです」と縁起に基づく受け止め方、修行のあり方を促しました。



教団創立88周年記念式典 ～会員特別功労者が庭野会長から拝受～

教団創立88周年の記念式典が3月5日、教会法座席で行なわれ多くの会員が参拝しました。式典はインターネット配信で大聖堂の様子がライブ中継され、その感動が伝わるようでした。

開式に先立ち、東京佼成ウインドオーケストラの演奏に合わせ、教会役員功労者と会員特別功労者の名前がスクリーンに映し出され、京都教会元支部長の名前が現れると法座席から大きな歓声と拍手が沸き起こりました。贈呈式においては功労者を代表して庭野会長から直接拝受し、その堂々とされる様子に会員は我が



ことのように喜んでいました。その贈呈式を大聖堂で直接見て、応援したいと13名の応援隊が集結。全国の会員と共に声援を送りました。

その後の東教会長のお言葉では、「元支部長さんのお陰で、皆さんが自分自身の信仰の物語を振り返ることが出来ました」としながら、「教団は88周年ですが、その陰に一人ひとりの誓願があり、誓願をさせて頂いたその歩みを振り返ると、仏さまのお陰さま、家族のお陰さま、サンガのお陰さま、多くの身の回りのお陰さま、または自分の病気のお陰さまなど、さまざま苦しんだお陰さまで、すべてのお陰さまに生かされて、今、自分があり、そしてこの信仰をしているということだろうと思います」と今日に至るまでを振り返りました。そして「信仰を頂いて、今があることの有り難さ。この有り難さをお返しすることが大切です」と今後の修行精進を促しました。

京都教会ビデオレター4月号 配信中 ～東教会長発～

ビデオレター4月号が京都教会のホームページで公開されています。パスワードは各支部長にご確認下さい。
<https://rkk-kyoto.jp/archive1/20260401>



左記のQRコードをスマートフォンで読んで、ご覧頂くことも出来ます。地区単位、各家庭においても視聴し、1ヶ月の修行目標とさせて頂きましょう。